

■ 7月の活動

～国内事業（国内誘致・修学旅行誘致・情報発信）～

国内誘致部

○修学旅行セールス(関西地区・関東地区)

7月12日(水)～14日(金)、令和4年度に修学旅行の訪問地を長崎県へ変更した関西地区(京都府・奈良県)の高等学校等17校及び取扱い旅行会社7社へ、継続して長崎に訪問していただけるよう、長崎市宿泊施設協議会と合同で誘致セールスを実施しました。

また、7月25日(火)の第40回全国修学旅行研究大会(東京都)に出席した際、旅行会社4社を訪問し長崎の紹介を行いました。

このうち訪問した関西地区では、現在2校が今年度も本県への修学旅行を予定しています。

今後も、他地区でのセールスを計画していますが、本県へのリピーター校と新規校を増やすよう更なる誘客に努めてまいります。

○佐世保観光コンベンション協会主催 修学旅行セールス

7月5日(水)～7日(金)、佐世保観光コンベンション協会主催の群馬県への修学旅行誘致セールスに、佐世保市の宿泊・観光施設と参加しました。

5月に続き2度目のセールスとなり、今回も2班に分かれ学校10校及び旅行会社等4か所へ、最新情報の案内とヒアリングを行いました。

群馬県内における学校の大半は、「平和学習」と「マリンレジャー」を体験することを目的に沖縄県を訪問先としており、昨年、他県に方面変更をしていた学校も今年度から本県に戻りつつある様子でした。

一方で、コロナ禍前から継続して本県を訪れている学校もありますが、同県では三年毎に見直しを行っていることから、引き続き、学校・旅行会社に対して積極的に本県の魅力発信、情報提供を行い、一校でも多くの学校に訪問先へと選んでもらえるよう修学旅行の誘致促進に努めてまいります。

○「長崎しま旅わくわく乗船券」のプロモーションについて

「長崎しま旅わくわく乗船券」のプロモーションの一環として、長崎と福岡のテレビ番組等を活用してプロモーションを実施しております。

■長崎放送 (NBC)

番組：「Pint」

放送日：7月18日(火) 新上五島町 (8分程度)

7月26日(水) 宇久町 (8分程度)

8月10日(木) 小値賀町 (8分程度)

■長崎国際テレビ (NIB)

番組：「よる〜じげトゥゲザーしようぜ！！」

放送日：7月29日(土) 五島市 (10分程度)

8月5日(土) 新上五島町 (10分程度)

番組：「ひるじげドン」

放送日：8月5日(土) 壱岐市〈前編〉(5分程度)

8月12日(土) 壱岐市〈後編〉(5分程度)

番組：「デジマンボワイド版」

放送日：8月26日(土) 対馬市 (20分程度)

番組：「オリジナルミニ番組 しま旅」

放送日：7月29日(土) 宇久町 〈前編〉(2分30秒程度)

8月5日(土) 宇久町 〈後編〉(2分30秒程度)

8月12日(土) 小値賀町 〈前編〉(2分30秒程度)

8月19日(土) 小値賀町 〈後編〉(2分30秒程度)

■RKB 毎日放送

番組：「タダイマ！」

放送日：7月14日(金) 壱岐市 (10分程度)

7月21日(金) 対馬市 (10分程度)

7月28日(金) 五島市 (10分程度)

■福岡放送 (FBS)

番組：「めんたいワイド」

放送日：8月10日(木) 壱岐市 (20分程度)

番組：「よる〜じげトゥギャザーしようぜ！！」

放送日：8月10日(木) 五島市 (10分程度)

8月17日(木) 新上五島町 (10分程度)

番組：「きらめきパレット」

放送日：8月11日(金) 対馬市 (3分程度)



放送の一部

○観光PRイベント「旅ミルン」への出展

7月8日（土）～9日（日）、JR西日本の観光PRイベント「旅ミルン」が4年振りに岡山県で開催され、五島市観光協会とともに出展しました。

当日は、観光パンフレットの配布などブースイベントのほか、観光PR、長崎県のキャラクター「がんばくん」によるステージイベントを実施しました。

前回の連続テレビ小説「舞い上がれ！」の効果もあり、多くのお客様がブースに来場され、ドラマの影響度の大きさを実感しました。



ブースの様子



ステージイベントの様子

観光コンテンツ開発支援室

○「やきうお」試食会を開催

当室では、「ひらかれた海」をコンセプトに、大村湾を活用した県内周遊・消費拡大を目指す『大村湾サイクルーzing』プロジェクト（※1）に、県と共同で取り組んでおり、その一環として、長崎の新鮮な魚を活用した新グルメ『やきうお』の開発を行っています。

『やきうお』は、長崎県産の魚介類の刺身を“七輪で炙り”、“薬味につけて”堪能する、長崎の魚の新しい楽しみ方を提供するグルメです。

去る7月19日（水）、時津ヤスタオーシャンホテルにおいて、関係者での試食会を行いました。赤身、白身、高級魚など豊富で多様な魚介類を揃え、長崎県産の塩やオリーブオイルなどを薬味とし、器も波佐見焼を使用するなど、世界感にもこだわった試食会となりました。

出席者からは、「刺身とは違う楽しさがある」「七輪を囲むことで自然と会話が弾んだ」などのポジティブな意見に加え、魚と薬味の組み合わせや提供スタイルへの改善案なども多くいただきました。年度内の本格デビューに向けて、長崎の新たな定番グルメとなるよう、ブラッシュアップを重ねながら開発を継続してまいります。

※1 『自転車（サイクル）』と『船（クルーズ）』の活用により、海路での県内周遊（移動時間の短縮）及び滞在時間延長による観光消費の拡大を目指すプロジェクト

【出席者21名】

- ・大村湾漁業協同組合（※魚介類の仕入れ・捌き）・時津町・長崎県
- ・安田産業汽船株式会社（※大村湾サイクルーzing P J 実施主体）
- ・一般社団法人長崎県観光連盟（※商品開発支援）



試食会の様子



やきうお



やきうお指南書

海外誘致

○香港ブックフェア 2023 への出展

7月19日(水)～25日(火)、香港最大の総合見本市である「香港ブックフェア2023」に、西部九州(福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県)として共同出展しました。

開催期間中は、居酒屋をモチーフにしたブース装飾を行うとともに、来場者へのノベルティ配布や参加型のクイズ大会の開催、公式 Facebook 等への登録キャンペーンなどを行い、来場いただいた多くの方々に、旅行先としての本県及び西部九州の魅力を発信することができました。

香港では、本年3月から新型コロナウイルス感染症対策に関する規制が全面的に撤廃され、国外旅行の需要も順調に回復していることから、より積極的なプロモーション等に取り組み、本県への誘客促進を図ってまいります。



ブース来場者の様子



九州に関するクイズ大会の様子

○九州観光機構主催 台湾市場向け九州観光説明会・商談会への参加

7月26日（水）、台北にて開催された九州観光機構主催の「台湾市場向け九州観光説明会・商談会」へ参加しました。

本県からは、当連盟もあわせ6事業者・団体、現地の旅行社は約100社が参加し、九州観光機構による説明後、日本側各ブースで個別商談が行われました。

秋以降、本県へのツアーを検討している旅行社もあり、具体的な観光、宿泊、食事処の相談がありました。九州周遊コースで長崎を含むコースは、行程が定番化しているので、新しいコンテンツの情報を求められています。

今後も団体、個人向けともに長崎の魅力的な情報をアップデートしながら、本県を含むコースの造成及び個人客の誘客に努めてまいります。



長崎県からの参加者



会場の様子

○釜山広域市観光協会との姉妹協会締結 35周年記念交流会

当連盟は、1988年6月2日に釜山広域市観光協会と姉妹協会を締結しており、今年で35周年を迎えました。これを記念し、7月26日（水）に釜山コモドホテルにおいて交流会が開催され、長崎県側は嶋崎会長ほか11名が参加し、釜山広域市観光協会のイ・テソプ会長ほか37名の歓迎を受けました。

交流会では、これまでの相互交流に関する写真での振り返り、記念品交換などが行われたほか、交流会に先立ち、2030年の万博誘致に取り組んでいる釜山広域市の万博誘致広報映像館を視察しました。

今回の交流会の答礼として、10月に長崎県内で交流会を開催することとしており、釜山広域市観光協会と良好な関係を継続し、より一層の相互送客等に努めてまいります。



交流会集合写真



万博誘致広報映像館の視察

○ソウル特別市観光協会との相互連携に関する覚書締結

7月28日（金）、ソウルにおいて、当連盟はソウル特別市観光協会との相互連携に関する覚書を締結しました。

韓国から長崎県への旅行商品造成・販売のため、本年3月、4月及び6月にソウル特別市観光協会の理事ほかを招請し、県内観光地等を視察いただいておりますが、4月の来訪の際、ソウル特別市観光協会の理事から、両機関が責任感を持って活動を続けるために、覚書締結の打診を受けたことをきっかけとして今回の締結に至りました。

覚書の主な内容は、①当連盟による韓国での観光情報発信、②ソウル特別市観光協会による長崎県への旅行商品の広報・販売促進、③相互の観光客の交流拡大となっており、今回の覚書締結を機に、両機関のコミュニケーションを密にし、より一層の交流促進に努めてまいります。



覚書締結式での集合写真

【お知らせ】

◆当連盟の会員である長崎自動車（平家取締役作成）より、「地域戦略レポート」の提供がありましたので、お知らせします。

- ①「じゃらん宿泊旅行調査 2023 都道府県魅力ランキング」より
- ②外国人観光案内所の状況

【今後の行事予定】

8月21日(月)	九州観光機構修学旅行説明会(東京)	/国内誘致部
8月22日(火)	九州観光機構素材説明会(東京)	/ "
8月22日(火)	九州観光機構主催セミナー・商談会(ベトナム)	/海外誘致部
・24日(木)		
8月23日(水)	JNTO主催韓国インセンティブ旅行商談会(ソウル)	/ "
8月24日(土)	九州観光機構素材説明会(大阪)	/国内誘致部
8月28日(月)	九州観光機構修学旅行説明会(広島)	/ "
8月29日(火)	九州観光機構素材説明会(福岡)	/ "
9月1日(金)	MATTA FAIR 2023(マレーシア)	/海外誘致部
～3日(日)		
9月2日(土)	ひろしま発!旅行ナビ出展(広島)	/国内誘致部
～3日(日)		
9月8日(金)	CIFIT出展(中国厦門)	/海外誘致部
～10日(日)		
9月9日(土)	ふるさと全国県人会まつり(名古屋)	/国内誘致部
～10日(日)		
9月11日(月)	アドベンチャートラベル・ワールドサミット(札幌)	/海外誘致部
～14日(木)		

【お問合せ】一般社団法人 長崎県観光連盟

TEL: 095-826-9407 E-mail: nagasaki@ngs-kenkanren.com

会員専用ページ: <https://www.nagasaki-tabinet.com/houjin/report/membership>

▼ 公式インスタグラム更新中! フォローをお願いします ▼

(日本語版)

@ngs_kanko_official



*多言語版もあります。ながさき旅ネットから言語を選択して御覧ください。

「じゃらん宿泊旅行調査 2023 都道府県魅力度ランキング」より

—— 調査期間は2022年度(22/4月～23/3月)

【総合満足度】 … 九州では、大分県と鹿児島県が上位。長崎県はまずまずの順位。現状に満足せず、「食」、「宿泊施設・温泉」、「ホスピタリティ・情報提供」に磨きを掛ければさらなるランクアップは可能。

- ・長崎県は前回の8位から不変。上位10先は僅差ながら大分県が10位から1位、鹿児島県が圏外(11位以下)から2位にランクアップ。

—— 大分県は安定的に好評な「宿泊施設」、「温泉」、「体験・アクティビティ」(地獄めぐり等)に加え、今回は「ホスピタリティ」の向上(大分県：前回8位→今回6位)が、鹿児島県は「体験・アクティビティ」(圏外→5位)および「ホスピタリティ」の向上(鹿児島県：圏外→2位)が要因か。

【話題】 … 長崎県は引き続き話題にはなっている。もともと、「100年に一度」の再開発は終盤戦であり、今の話題がいつまでも続く考えるのは甘い。

- ・「テレビや雑誌などで話題になっていたから」は、北海道、沖縄県、長崎県の順。長崎県は前回の2位から3位に。西九州新幹線開通前からのマスコミによる長崎特集の効果は今のところ続いている感。

【食・土産】 … 長崎県の弱点。これまでどおりのカステラ、ちゃんぽんだけでは力不足。海鮮をどう売るかを真剣に考えて行動に移す必要。

- ・「地元ならではのおいしい食べ物が多かった」の上位3先は、石川県、北海道、富山県で、ポイントは“海鮮”。また、圏外からトップテン入りした地域をみると、うどんの香川県(5位)、ラーメンの福岡県(5位)、冷麺の岩手県(10位)と麺類の検討が目立つ。一方、肉の特産地である鹿児島(前回4位)、三重県(前回6位)、岐阜県(前回10位)が圏外へ。九州7県のうち今回にトップテン入りしたのは福岡県のみ。長崎県は引き続き圏外。
- ・「そこならではの食・特産品に興味があったから」の上位は、北海道、高知県、石川県、富山県、広島県と続く。長崎県は前回の3位から10位にランクダウン。長崎県を除く九州6県では、鹿児島県が前回(6位)に引き続きトップテン入り(9位)。

【地域戦略レポート】

- ・「**魅力ある特産品や土産物が多かった**」の上位3先は、北海道、沖縄県、石川県。長崎県は前回は9位、今回は10位。長崎県を除く九州6県では、福岡県(圏外→6位)、鹿児島県(6位→8位)がトップテン入りし、熊本県(前回10位)が圏外へ。

【**宿泊・温泉**】… 大分県の独り勝ち。長崎県の弱点。宿泊施設の弱さは不変。温泉については、雲仙温泉をどう売っていくのかが課題。

- ・「**魅力的な宿泊施設が多かった**」の上位3先は、前回と不変で大分県、沖縄県、群馬県の順。長崎県は引き続き圏外。前回5位であった鹿児島県を含む他の九州5県も圏外。
- ・「**良い宿・ホテルがあったから**」の上位3先は、大分県、栃木県、群馬県。長崎県を含む大分県以外の九州6県は引き続き圏外。
- ・「**魅力的な温泉があったから**」の上位3先は、大分県、群馬県、山形県。大分県と群馬県は不変。九州では、大分県以外は佐賀県が9位から6位にランクアップしたほか、熊本県が10位にランクインした一方、鹿児島県(前回7位)が圏外へ。長崎県は引き続き圏外。

【**観光スポット、施設、体験、イベント**】… 千葉県および沖縄県が強い。長崎県はハウステンボス以外の観光スポットの整備が課題か。“海”と“温泉”は長崎の資源として更なる活用を。

- ・「**子供が楽しめるスポットや施設・体験が多かった**」の上位3先は、千葉県、沖縄県、和歌山県で不変。千葉県は18回目の1位で、ベスト3は15回連続で順位の変動はないとのこと。テーマパーク、水族館、ビーチの人气がけん引。長崎県は5位(前回4位)と健闘。他の九州6県では、大分県が圏外から8位にランクイン。温泉やリゾートホテル等が寄与。
- ・「**若者が楽しめるスポットや施設・体験が多かった**」の上位3先は、千葉県、沖縄県、大阪府の順。千葉県と大阪府はテーマパークに加え、ショッピングやスポーツ観戦・お笑いの寄与。沖縄県はマリンスポーツ、ショッピング、水族館。長崎県は前回4位から今回8位へ。他の九州6県では、福岡県が圏外から6位にランクイン。繁華街、ショッピングが要因。大分県は引き続き10位。
- ・「**大人が楽しめるスポットや施設・体験が多かった**」の上位3先は、千葉県、沖縄県、京都府の順。長崎県は前回6位から今回4位にランクアップ。歴史的史跡がけん引か。他の九州6県では、大分県が引き続きランクイン(前回5位、今回7位)。
- ・「**ご当地ならではの体験・アクティビティが楽しめた**」の上位3先は、沖縄県、群馬県、大分県。大分県は「地獄めぐり」等。九州では他に鹿児島県(5位)と長崎県

【地域戦略レポート】

(9位)がランクイン。温泉や海などの観光資源、景勝地を活用したアクティビティなどが主流との指摘。

- ・「**特定の観光地・観光スポットに興味があったから**」の上位3先は、奈良県、鹿児島県、高知県。鹿児島県は前回5位から2位にランクアップ。長崎県は前回4位、今回7位とまずまず。
- ・「**特定のイベントやアクティビティに興味があったから**」の上位3先は、沖縄県、大阪府、千葉県と前回と不変。テーマパークやビーチが人気か。長崎県は前回5位、今回7位とこれもまずまず。他の九州6県では、福岡県が8位で不変。

【ホスピタリティ・観光情報】… 長崎の弱点。ホスピタリティは顧客と対面するスタッフの認識を変えなければ難しいか。観光情報の発信の在り方は再考を。

- ・「**地元の人**のホスピタリティを感じた」(おもてなしを示す代表的な指標)は、1位が沖縄県、2位が鹿児島県、3位が北海道と富山県。沖縄県は18回連続で1位。鹿児島県が圏外からランクインし、2018年度の3位から4年振りのベスト3入り。お店や宿の人が「愛想がよい」、「ゆったりとした雰囲気」などの意見があるとのこと。大分県が前回8位から今回6位に。長崎県は引き続き圏外。
- ・「**現地で良い観光情報を入手できた**」の上位3先は、沖縄県、北海道、京都府とわが国を代表する観光地が並ぶ。沖縄県は12年連続1位で、「地元の人しか知らないスポットを教えてもらった」といった地元住民などからの情報が評価されている。北海道と京都府はタクシー運転手の評価が高いことに加えて、京都府は「地図がわかりやすい」といったツールの利便性を挙げる声もあるとのこと。長崎県は引き続き圏外。九州では、鹿児島県(前回7位、今回8位)と大分県(圏外から9位に)がトップテン入り。

以 上

じゃらん宿泊旅行調査 2023 【都道府県魅力度ランキング編】

総合満足度1位は大分県 食は石川県が2年ぶりに1位を奪還
特産品・お土産は北海道が調査開始以来、初の1位獲得



株式会社リクルート（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：北村 吉弘）の観光に関する調査・研究、地域振興機関『じゃらんリサーチセンター』（JRC、センター長：沢登 次彦）は、全国1万5,572人の宿泊旅行者を対象に「じゃらん宿泊旅行調査 2023」を実施しました。この調査は、観光などを目的とした宿泊を伴う国内旅行（出張・帰省・修学旅行などを除く）実態を調べるもので、今年で19回目となります。2022年度（2022年4月～2023年3月）の主な結果は以下の通りです。

【総合満足度】

1位大分県、2位鹿児島県、3位北海道。温泉+αのコンテンツが大分県の魅力

- 大分県が2021年度10位から大きくランクアップして1位に。コロナ禍を経て、宿にゆっくり滞在する旅からアクティブな旅の需要が戻る中、温泉を軸に持ちながらも、まち歩きコンテンツを多く擁する点が評価された。

【地元ならではのおいしい食べ物が多かったランキング】

1位石川県、2位北海道、3位富山県。海鮮系イメージの強い3道県がベスト3に。

- 石川県が2年ぶりに1位に返り咲き。海鮮系の印象が強い地域が上位に入るが、肉類も健闘。ベスト10には5位に香川県と福岡県、10位に岩手県が入り、いずれも麺類が人気の県が新たにランクインした。

【魅力のある特産品や土産物が多かったランキング】

北海道が調査開始以来初の1位。海産物、菓子類などバラエティの豊富さが人気の要因

- 1位の北海道は2005年の調査開始以来、初めての1位獲得。じゃがいもやミルクを使用した「しょっぱい系」「甘い系」菓子類の豊富さ、海鮮類、ラーメンなど多岐にわたるラインアップが魅力。2位の沖縄県、3位の石川県も同様にバラエティの豊富さが上位に入る要因と言えそう。



JRC 主席研究員
森戸 香奈子

《解説》

地域グルメは「一点集中型」から地域を支える「カルチャー」へ
グルメのランキングでは海鮮系が相変わらず強いものの、肉類・菓子類・お茶・日本酒など、その内容がバラエティに富んできています。数年前に見られた一点集中型のマーケティングから、総合力、つまりその地域のカルチャーが感じられるか、ブランド力が求められてきていると言えそうです。またコロナ禍からの回復途上にある今年度の調査では、沖縄を訪れた方の「歓迎ムードを感じた」というコメントが印象的でした。地域全体でお客さまを受け入れる気持ちがきちんとお客さまにも伝わって、旅の満足度につながっていることが感じられます。

本件に関する
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

◎調査方法 インターネットによる調査

■1次調査

- ①調査目的 全国の宿泊旅行実施者を抽出することに加え、性・年代別の宿泊旅行実施率を知るために実施した
- ②調査時期 2023年4月1日（土）～2023年4月21日（金）
- ③調査対象 全国18～79歳の男女（株式会社マクロミルの登録モニター）
※2023年調査より、18歳・19歳を追加し調査対象者の年齢範囲を拡大している
- ④配信数 232万2,266件
- ⑤調査内容 2022年度（2022年4月～2023年3月）1年間の国内宿泊旅行（出張・帰省・修学旅行などを除く）実態
- ⑥回収数 8万3,500件（回収率3.6%）
- ⑦集計対象者 2万件
※2次調査において都道府県別、性・年代別の割り付けに合った回収が得られるように配信した
- ・配信数と割り付けについて
2次調査のセル別目標回収数は、「令和2年 国勢調査」の都道府県別、性・年代別の人口におおむね従うように47都道府県を5ランクに分けサンプル数を割り付けて配信した
ランクごとに6:5:3:2:1の割合で、合計約1万5,400件の回収を目標とした
 - ・2次調査の配信数について
ウェイトバック値のバランスをなるべくそろえるために、県別に均等割り付けではなく、ランクを設けて割り付けを行った上で、1次調査および追加調査の旅行実施者3万2,573件を都道府県ごとに分配し、サンプル数を割り付けて配信した
※回収された8万3,500件のうち都道府県別、性・年代別に割り付けを行い2万件を抽出
性・年代別宿泊旅行実施率を算出

■2次調査

- ①調査目的 全国の宿泊旅行実施者に対して、宿泊旅行の内容を知るために実施した
- ②調査時期 2023年4月7日（金）～2023年4月21日（金）
- ③調査対象 3万2,633件（うち、同居家族モニター60件）
- ・1次調査において、「昨年度1年間に国内宿泊旅行をした」と回答した人：3万2,573件
 - ・追加調査において、「昨年度1年間に国内宿泊旅行をした」と回答した人のうち、調査協力が得られた60歳以上の家族本人：60件
※調査回収難度が高い60歳以上の回収数を増やすために追加調査を実施した
追加調査は株式会社マクロミルの登録モニターのうち60歳以上の家族と同居しているモニターを対象として、該当家族が同居する上で回答という条件で実施した
(回収数6,839件<配信数13万2,454件 回収率5.2%>、2次調査対象者数60件)
- ④配信数 2万5,421件（うち、同居家族モニター45件）
※配信数は対象者の中から都道府県別、性・年代別の割り付けに合わせてランダムに抽出した
- ⑤調査内容 昨年度1年間に実施した全ての宿泊旅行（出張・帰省・修学旅行などを除く）の行き先と回数について、また一人最大3件までの個別宿泊旅行について、具体的な内容を調査した
- ⑥回収数 1万5,629件（回収率61.5%）
- ⑦有効回答数 1万5,572件（うち、同居家族モニター33件）
（旅行件数ベース3万469件）

■ 総合満足度

1位：大分県、2位：鹿児島県、3位：北海道

大分県が2021年度から9ランクアップで1位を獲得。
2位に鹿児島県が入り、上位2県を九州勢が占めた。

上位10道府県はいずれも9割前後で並び、僅差でのランキングに。1位は大分県が獲得。2位の鹿児島県は圏外からのランクインで、九州2県が上位を席巻した。4位の岩手県、6位の長野県・石川県が圏外からランクインを果たした。

(単位：%)

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	85.5	全体平均	84.6
1位 大分県	90.9	1位 和歌山県	91.0
2位 鹿児島県	90.2	2位 沖縄県	90.8
3位 北海道	89.9	3位 三重県	89.7
4位 岩手県	89.3	4位 北海道	88.3
5位 京都府	88.8	5位 京都府	88.1
6位 長野県	88.3	6位 青森県	88.0
6位 石川県	88.3	7位 福井県	87.8
8位 長崎県	87.9	8位 長崎県	87.5
9位 沖縄県	87.7	9位 静岡県	87.2
10位 三重県	87.6	10位 大分県	87.1

■ 地元ならではのおいしい食べ物が多かった

1位：石川県、2位：北海道、3位：富山県

石川県が1位に振り返り、海鮮系が人気だが肉類や麺類も多く挙がる。

石川県が2年ぶりに1位を奪還。「のどぐる」「寿司」など海鮮が挙がる中で「金沢おでん」「能登牛」なども健闘。2位の北海道は海鮮に並んで「ジンギスカン」「ラーメン」も人気で、北海道の3大グルメと言えそう。3位の富山県も「白海老」や「ホタルイカ」など圧倒的に海鮮系が人気。新たにランクインした中では5位の香川県の「うどん」、福岡県の「ラーメン」、10位岩手県の「冷麺」など、麺類が人気。

(単位：%)

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	62.9	全体平均	62.0
1位 石川県	78.3	1位 福井県	79.0
2位 北海道	77.6	2位 石川県	77.1
3位 富山県	76.3	3位 富山県	74.1
4位 宮城県	75.3	4位 鹿児島県	73.4
5位 香川県	73.2	5位 北海道	73.3
5位 福岡県	73.2	6位 三重県	72.7
7位 山形県	73.1	7位 沖縄県	72.4
8位 高知県	72.8	8位 高知県	72.2
9位 広島県	72.2	9位 山形県	72.1
10位 岩手県	72.1	10位 岐阜県	72.0

(単位：%)

■ 魅力のある特産品や土産物が多かった

1位：北海道、2位：沖縄県、3位：石川県

北海道は初めての1位。ベスト3の特産品は海鮮、菓子類、工芸品など多種多様な顔ぶれ。

調査開始以来初めて北海道が1位を獲得。ミルクやじゃがいもを使用した菓子類や「毛ガニ」などの海産物、ラーメンなど多岐にわたる。2位の沖縄県は「ちんすこう」「紅芋タルト」「サーターアンダギー」などの菓子類のほか、「シーサー」「やちむん」などの工芸品も。3位の石川県は海産物が圧倒的に人気だが、「日本酒」「金箔製品」「加賀茶」「九谷焼」などバラエティ豊か。ほか、宮城県、福岡県、広島県、秋田県などが圏外からランクイン。

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	52.4	全体平均	50.9
1位 北海道	67.1	1位 石川県	65.0
2位 沖縄県	66.1	2位 沖縄県	63.4
3位 石川県	62.9	3位 山形県	61.9
4位 宮城県	62.7	4位 愛媛県	61.5
4位 京都府	62.7	5位 北海道	60.9
6位 福岡県	61.0	6位 鹿児島県	60.2
7位 広島県	60.4	7位 京都府	59.3
8位 鹿児島県	59.9	8位 青森県	58.3
9位 秋田県	59.8	9位 長崎県	57.9
10位 長崎県	59.4	10位 高知県	57.8
		10位 熊本県	57.8

(単位：%)

■ 魅力的な宿泊施設が多かった

1位：大分県、2位：沖縄県、3位：群馬県

ベスト3は2021年度と変わらず。
6位に和歌山県がランクイン。

大分県が2年連続12回目の1位を獲得。2位、3位とも2021年度と順位は動かず。1位の大分県は温泉旅館やホテル、2位の沖縄県はリゾートホテルを挙げるケースが多いが、いずれも宿泊施設の固有名詞が挙がるのが特徴。6位に和歌山県が圏外よりランクイン。白浜温泉を中心に温泉旅館やホテルの名前が多く挙がる。

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	48.9	全体平均	50.2
1位 大分県	66.4	1位 大分県	68.0
2位 沖縄県	64.1	2位 沖縄県	65.6
3位 群馬県	58.6	3位 群馬県	59.0
4位 北海道	57.4	4位 神奈川県	58.3
5位 京都府	56.7	5位 鹿児島県	58.1
6位 和歌山県	55.9	6位 北海道	57.8
7位 山形県	55.0	6位 石川県	57.8
8位 静岡県	54.9	8位 静岡県	56.9
9位 神奈川県	54.6	9位 京都府	56.1
10位 石川県	54.4	10位 山形県	55.2

■ 地元の人へのホスピタリティを感じた

1位：沖縄県、2位：鹿児島県、3位：北海道、富山県

沖縄県は18回目の1位。地方のゆったりとした雰囲気や地元の人との交流が印象に残る。

1位の沖縄県は18回連続で1位を獲得。「歓迎ムード」を感じたというコメントも。2位の鹿児島県は圏外よりランクインし、2018年度の3位以来、4年ぶりのベスト3入り。お店や宿の人が「愛想がよい」「ゆったりとした雰囲気」などの意見がある。親切さや人懐っこさなど人柄に加えて、果物をもらったり、会話を楽しんだなど地元の人との交流を通してホスピタリティを感じることが多いようだ。

(単位：%)

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	27.3	全体平均	28.3
1位 沖縄県	46.0	1位 沖縄県	46.6
2位 鹿児島県	38.0	2位 愛媛県	36.8
3位 北海道	37.1	3位 北海道	36.1
3位 富山県	37.1	4位 山形県	35.9
5位 秋田県	35.4	5位 石川県	35.0
6位 大分県	32.9	6位 徳島県	34.8
7位 群馬県	30.9	7位 青森県	33.2
8位 山形県	30.6	8位 大分県	32.9
9位 岩手県	30.4	9位 島根県	32.8
10位 福島県	30.2	10位 秋田県	32.5

■ 子供が楽しめるスポットや施設・体験が多かった

1位：千葉県、2位：沖縄県、3位：和歌山県

千葉県は18回目の1位。ベスト3は15回連続で順位の変動なし。

1位から3位までの順位は2008年度から15年連続で変化なし。1位の千葉県はテーマパークや水族館、景勝地などの名前が挙がるが、「電車の本数が多い」といった利便性を挙げる声も。2位の沖縄県は水族館やビーチに加え「シーサーづくり」などものづくり体験も人気だ。8位に大分県が圏外からランクイン。温泉やリゾートホテル、動物園、テーマパークなどの名前が挙がる。

(単位：%)

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	27.4	全体平均	26.0
1位 千葉県	55.4	1位 千葉県	46.9
2位 沖縄県	44.0	2位 沖縄県	39.4
3位 和歌山県	40.3	3位 和歌山県	34.2
4位 栃木県	34.4	4位 長崎県	32.2
5位 長崎県	34.3	5位 三重県	32.1
6位 大阪府	33.2	6位 北海道	30.9
7位 北海道	32.8	7位 大阪府	30.8
8位 大分県	32.2	8位 栃木県	30.6
9位 三重県	32.0	9位 茨城県	30.4
10位 山梨県	30.8	10位 山梨県	29.3

■ 若者が楽しめるスポットや施設・体験が多かった

1位：千葉県、2位：沖縄県、3位：大阪府

テーマパークや水族館、名所旧跡などの観光地に加えショッピングモールや繁華街など「買い物」も重要。

1位の千葉県は3年ぶりに1位を奪還。人気テーマパーク以外に、スポーツ観戦やショッピングモールなど、千葉県らしいスポット名が挙がる。2位の沖縄県はマリンスポーツやショッピングエリア、水族館など。大阪府の3位は17年連続。テーマパーク、お笑いや音楽のライブイベント、名所旧跡などが人気。6位の福岡県、9位の和歌山県が新たにランクイン。繁華街、ショッピングモール名など買い物できるところが多い。

(単位：%)

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	31.0	全体平均	28.4
1位 千葉県	52.8	1位 沖縄県	47.7
2位 沖縄県	50.9	2位 千葉県	44.6
3位 大阪府	43.7	3位 大阪府	37.0
4位 東京都	36.5	4位 長崎県	34.0
5位 北海道	36.4	5位 北海道	33.8
6位 福岡県	35.9	6位 神奈川県	31.8
7位 神奈川県	35.4	7位 東京都	31.2
8位 長崎県	34.5	8位 山梨県	30.7
9位 和歌山県	33.5	9位 兵庫県	30.5
10位 大分県	32.4	10位 大分県	30.3

■ 大人が楽しめるスポットや施設・体験が多かった

1位：千葉県、2位：沖縄県、3位：京都府

千葉県は7年ぶりの1位。2位の沖縄県はナイトスポットも人気。

1位の千葉県は2015年度以来、7年ぶりの1位。テーマパークやライブ会場、リゾートホテルなどが挙げられる。2位の沖縄県はビーチや水族館、ホテルやショッピングエリアに加えて居酒屋・バーなどのナイトスポット、歴史的史跡など多様なコメントが。3位の京都府は神社仏閣が圧倒的多数を占める。6位の島根県、9位の和歌山県、10位の三重県が圏外からランクイン。

(単位：%)

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	42.6	全体平均	40.2
1位 千葉県	56.7	1位 京都府	52.7
2位 沖縄県	55.1	2位 奈良県	51.2
3位 京都府	53.7	3位 沖縄県	51.1
4位 長崎県	49.9	4位 千葉県	49.3
5位 北海道	47.8	5位 大分県	46.6
6位 島根県	47.5	6位 神奈川県	45.2
7位 神奈川県	47.4	6位 長崎県	45.2
7位 大分県	47.4	8位 石川県	44.5
9位 和歌山県	47.1	9位 愛媛県	43.5
10位 三重県	46.4	10位 北海道	43.1

(単位：%)

■ 現地で良い観光情報を入手できた

1位：沖縄県、2位：北海道、3位：京都府

1位の沖縄県は地元の人からの情報への評価が高い。北海道、京都府ではタクシーの運転手も多く挙がる。

ホテルや案内所、パンフレットなど従来の情報源に加えて、SNSやインターネット、地元住民などからの情報が主流。沖縄県は12年連続1位で住民からの情報を挙げる人が多いのが特徴で「地元の人しか知らないスポットを教えてもらえた」など。また人気テレビドラマのイベントや、安くチケットが買えたなどのコメントも。2位の北海道、3位の京都府は「タクシーの運転手」というコメントも多い。また京都府では「地図が分かりやすい」などツールの利便性を挙げる声も。

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	27.9	全体平均	28.1
1位 沖縄県	42.9	1位 沖縄県	46.1
2位 北海道	37.5	2位 京都府	36.9
3位 京都府	35.4	3位 愛媛県	36.8
4位 奈良県	34.2	4位 北海道	36.4
5位 富山県	33.5	4位 徳島県	36.4
6位 広島県	32.5	6位 高知県	34.9
7位 秋田県	31.6	7位 鹿児島県	34.2
8位 鹿児島県	31.1	8位 島根県	33.5
9位 大分県	30.9	9位 石川県	32.7
10位 島根県	30.8	10位 奈良県	31.5

※ 2011年度からの追加調査項目

■ ご当地ならではの体験・アクティビティが楽しめた

1位：沖縄県、2位：群馬県、3位：大分県

沖縄県が3回連続1位で2位に10ポイント超の差。観光資源や景勝地を活用したアクティビティが人気。

沖縄県が3年連続1位。マリンスポーツやイルカなどの動物とのふれあい体験など海にちなんだ体験が多い。ヨガやジョギングを挙げる人も。2位の群馬県は温泉やスノーアクティビティ、景勝地の散策やパラグライダーなどのアクティビティも人気。3位の大分県は温泉や「地獄めぐり」など。5位の鹿児島県、7位の栃木県・千葉県、9位の長崎県が圏外よりランクイン。温泉や海などの観光資源、景勝地を活用したアクティビティなどが主流だ。

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	35.3	全体平均	35.3
1位 沖縄県	56.8	1位 沖縄県	53.8
2位 群馬県	46.3	2位 徳島県	45.5
3位 大分県	45.1	3位 大分県	45.2
4位 北海道	44.7	4位 長野県	44.3
5位 鹿児島県	43.2	5位 北海道	43.1
6位 和歌山県	40.5	6位 山形県	42.2
7位 栃木県	40.4	7位 和歌山県	42.1
7位 千葉県	40.4	8位 群馬県	40.8
9位 長崎県	39.9	9位 青森県	40.7
10位 山梨県	39.8	10位 岐阜県	40.2

※ 2020年度からの追加調査項目

<ランキングの算出方法> ※集計は各都道府県への宿泊旅行件数がベース

- ①訪問した旅行先の評価を「そう思う」「ややそう思う」「ふつう」「あまりそう思わない」「そう思わない」の5段階から選択
- ②「そう思う」「ややそう思う」計の割合が高い順にランキング
- ③総合満足度においては「とても満足」「やや満足」「ふつう」「やや不満」「とても不満」のうち、「とても満足」「やや満足」計の割合が高い順にランキング

<コメントの回答方法> 「そう思う」「ややそう思う」と回答した設問に任意でコメント記入

※対象設問：「地元ならではのおいしい食べ物が多かった」「魅力のある特産品や土産物が多かった」「魅力的な宿泊施設が多かった」「地元の人ホスピタリティを感じた」「子供が楽しめるスポットや施設・体験が多かった」「若者が楽しめるスポットや施設・体験が多かった」「大人が楽しめるスポットや施設・体験が多かった」「現地で良い観光情報を入手できた」「ご当地ならではの体験・アクティビティが楽しめた」

■ 特定のイベントやアクティビティに興味があったから

(単位：%)

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	36.1	全体平均	33.8
1位 沖縄県	48.1	1位 沖縄県	44.7
2位 大阪府	47.1	2位 大阪府	44.5
3位 千葉県	46.3	3位 千葉県	44.0
4位 東京都	43.4	4位 北海道	40.7
5位 北海道	42.6	5位 長崎県	39.9
6位 愛知県	41.2	6位 東京都	38.3
7位 長崎県	40.6	7位 茨城県	37.3
8位 福岡県	40.5	8位 福岡県	36.9
9位 香川県	38.2	9位 福井県	36.5
10位 山梨県	37.5	10位 宮城県	35.0
10位 広島県	37.5	10位 愛媛県	35.0

■ テレビや雑誌などで話題になっていたから

(単位：%)

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	23.7	全体平均	23.3
1位 北海道	34.1	1位 北海道	33.2
2位 沖縄県	32.6	2位 長崎県	32.3
3位 長崎県	29.6	3位 京都府	29.3
3位 千葉県	29.6	4位 沖縄県	29.0
5位 京都府	27.0	5位 石川県	27.9
6位 石川県	26.9	6位 大分県	26.0
7位 島根県	26.1	7位 山口県	25.7
8位 大分県	26.0	8位 神奈川県	25.5
9位 神奈川県	25.7	9位 千葉県	24.4
10位 群馬県	25.5	10位 愛媛県	24.1

■ 特定の観光地・観光スポットに興味があったから

(単位：%)

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	65.3	全体平均	63.1
1位 奈良県	79.8	1位 奈良県	77.1
2位 鹿児島県	77.1	2位 島根県	76.8
3位 高知県	76.9	3位 三重県	74.6
4位 島根県	75.6	4位 長崎県	73.9
5位 広島県	75.0	5位 京都府	73.3
6位 京都府	74.6	5位 鹿児島県	73.3
7位 徳島県	73.9	7位 沖縄県	72.4
7位 長崎県	73.9	8位 岐阜県	72.1
9位 北海道	73.7	9位 愛媛県	71.5
10位 千葉県	73.4	10位 和歌山県	71.1
10位 三重県	73.4		

■ そこならではの食・特産品に興味があったから

(単位：%)

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	47.6	全体平均	46.5
1位 北海道	65.3	1位 福井県	62.8
2位 高知県	63.6	2位 北海道	61.0
3位 石川県	62.2	3位 長崎県	59.8
4位 富山県	62.1	4位 高知県	59.7
5位 広島県	62.0	5位 石川県	59.2
6位 香川県	61.4	6位 鹿児島県	58.8
7位 沖縄県	60.0	7位 沖縄県	55.2
8位 三重県	56.2	8位 山形県	54.9
9位 鹿児島県	55.4	9位 三重県	54.6
10位 長崎県	55.3	10位 佐賀県	53.5

■ 良い宿・ホテルがあったから

(単位：%)

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	55.2	全体平均	59.5
1位 大分県	71.2	1位 大分県	71.1
2位 栃木県	71.0	2位 静岡県	69.5
3位 群馬県	67.7	3位 群馬県	68.7
4位 和歌山県	65.8	4位 三重県	68.6
5位 静岡県	64.7	5位 神奈川県	68.4
6位 福島県	61.8	6位 和歌山県	67.0
7位 山形県	61.0	7位 福島県	65.4
8位 神奈川県	60.9	8位 新潟県	65.3
9位 長野県	60.1	9位 栃木県	65.2
9位 京都府	60.1	10位 岐阜県	64.7
9位 兵庫県	60.1		

■ 魅力的な温泉があったから

(単位：%)

2022年度 順位		2021年度 順位	
全体平均	36.7	全体平均	41.7
1位 大分県	74.1	1位 大分県	74.6
2位 群馬県	69.4	2位 群馬県	72.8
3位 山形県	65.2	3位 岐阜県	62.1
4位 栃木県	59.2	4位 鳥取県	60.2
5位 福島県	58.4	5位 山形県	59.8
6位 佐賀県	57.6	6位 和歌山県	59.7
7位 岐阜県	56.5	7位 鹿児島県	59.3
8位 和歌山県	55.0	8位 静岡県	58.7
9位 鳥取県	54.7	9位 栃木県	58.6
10位 熊本県	53.6	9位 佐賀県	58.6

<ランキングの算出方法> ※集計は各都道府県への宿泊旅行件数がベース

① 訪問した旅行先を選んだ理由を「当てはまる」「やや当てはまる」「どちらともいえない」「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の5段階から選択

② 「当てはまる」「やや当てはまる」計の割合が高い順にランキング

リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、マッチング&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにはない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.com/ja/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>

外国人観光案内所の状況

(外国人観光案内所の設置)

- 日本政府観光局(JNTO)では、観光庁が定めた「外国人観光案内所の設置・運営のあり方指針(2012年1月制定、2018年4月改定)」に基づき、2012年度より、外国人観光案内所の認定制度を運用。認定は3年毎の更新制。

(認定区分)

- 外国人観光案内所の認定区分と、それぞれの主な基準は次の通り。

カテゴリー3	常時英語による対応が可能。その上で、英語以外にも2言語以上での案内が常時可能な体制がある。全国レベルの観光案内を提供。原則年中無休。Wi-Fiあり。ゲートウェイや、外国人来訪者の多い立地。
カテゴリー2	少なくとも英語で対応可能なスタッフが常駐。広域の案内を提供。
カテゴリー1	常駐でなくとも何らかの方法で英語対応可能。地域の案内を提供。
パートナー施設	観光案内を専業としない施設であっても、外国人旅行者を積極的に受け入れる意欲があり、公平・中立な立場で地域の案内を提供。

(設置件数)

- 全国の外国人観光案内所の設置件数の推移をみると、コロナ前に比べ149か所増加したものの、その殆どは「パートナー施設」および「カテゴリー1」であり、「カテゴリー3」は3か所の増加に止まる。

▽全国の外国人観光案内所の設置件数の推移

(件)

認定区分	2017年度 (18/3月末)	2018年度 (19/3月末)	2019年度 (20/3月末)	2020年度 (21/3月末)	2021年度 (22/3月末)	2022年度 (23/3月末)	2023年度 (23/5月末)	19年度比
カテゴリー3	48	49	50	51	51	53	53	+3
カテゴリー2	269	309	315	333	329	322	319	+4
カテゴリー1	488	556	662	687	694	699	699	+37
パートナー施設	106	132	338	487	486	440	443	+105
計	911	1,046	1,365	1,558	1,560	1,514	1,514	+149

【地域戦略レポート】

- 各都道府県の設置状況をみると、長崎県(77 か所)は東京都(132 か所)、北海道(106 か所)に次いで全国 3 位。コロナ禍前からの増加数も+10 か所と北海道(+12 か所)、神奈川県(+11 か所)に次いで 3 位。

	23/4月末	20/3月末比		23/4月末	20/3月末比		23/4月末	20/3月末比		23/4月末	20/3月末比
北海道	106	+12	東京都	132	▲1	滋賀県	26	+3	香川県	21	+7
青森県	16	+3	神奈川県	37	+11	京都府	38	▲6	愛媛県	24	+3
岩手県	30	+3	山梨県	20	+2	大阪府	51	▲4	高知県	19	+2
宮城県	30	+4	新潟県	37	+2	兵庫県	34	▲1	福岡県	37	+0
秋田県	26	+8	富山県	24	+1	奈良県	21	+2	佐賀県	20	+4
山形県	23	+6	石川県	34	+0	和歌山県	26	+0	長崎県	77	+10
福島県	21	+4	長野県	48	+7	鳥取県	15	+4	熊本県	28	+4
茨城県	16	+2	福井県	18	+8	島根県	28	+7	大分県	22	+2
栃木県	24	+7	岐阜県	36	+6	岡山県	18	+0	宮崎県	12	+1
群馬県	15	+5	静岡県	52	▲2	広島県	49	+5	鹿児島県	25	+8
埼玉県	23	+1	愛知県	33	+3	山口県	26	+6	沖縄県	20	▲2
千葉県	42	+4	三重県	22	+0	徳島県	13	+4			

(注)九州・沖縄8県の設置数は2023年5月末現在。

- もっとも、長崎県の 77 か所をみると、もっとも上位のカテゴリー 3 はゼロ、カテゴリー 2 は 4 か所、カテゴリー 1 は 9 か所と少なく、残り 64 か所はパートナー施設。

ただ、パートナー施設のうち 61 か所はセブンイレブンであり、その機能度については疑問なしとしない。

なお、北海道のパートナー施設は道の駅が多く、東京都や神奈川県の場合は地域の比較的小規模な観光案内所に加え、ホテルがパートナー施設となっている。

- このように外国人観光案内所の“数”そのものは、他の都道府県に比べて多いが、ポイントは、その“質”や“外国人観光客の満足度”が高いかどうか。

例えば、外国人観光案内所のうち「文化体験」ができる案内所は全国 55 か所であるが、長崎県内は佐世保(佐世保観光情報センター)と平戸の 2 か所(ともに着物体験)のみ。九州・沖縄地域でみると、福岡県(津屋崎<着物体験>)、佐賀県(唐津)、熊本県(阿蘇<ツアー>、天草)、沖縄県(中城、ぎのざ<ツアー>)、おおぎみ<着物体験、ツアー>)がある。因みに、日本経済新聞の各地方面にされた事例をみると、多言語対応の拡充が多くみられたほか、外国人観光案内所での体験への注力も散見される。

- また、意外と少ないのが案内所での手荷物一時預かり。案内所の多くは駅に設置されているため、構内のコインロッカーを勧めることが多いと考えられるが、「案内」、「ツアー申込み」、「手荷物預かり」といったことが“ワンストップ”でできる案内所は、旅行者にとって便利。まさに“お客様目線”のサービスと言える。

【地域戦略レポート】

- さらに、京都での取り組みのようにチャットボットの活用による案内も、人手不足の状況下では有効な手段といえるほか、端末を通して案内者と直接話ができるような仕掛けも人手不足対策・案内所の効率化の方策として検討に値すると思われる（以前、新宿における自動運転バスの体験乗車の際に報告した「遠隔案内機能付きのスマートバス停」とある意味同じ発想）。

▽日本経済新聞において紹介された各外国人観光案内所の取り組み事例

北海道	函館空港(カテゴリー2)は外国人観光案内所表彰の「提案力の磨き上げ」部門で1位。以前は館内や二次交通の案内だったものを観光スポットや隠れた名店といった地元密着の情報発信を強化。 因みに、北海道内にカテゴリー1が39か所、カテゴリー2が28か所。
東北	秋田県仙北や福島駅の案内所では、多言語化に注力。仙台では、歴史に触れ、お菓子作りもできるイベントを月数回のペースで実施。
北信越	金沢では、通訳ボランティアを再開した人に「再研修」の機会を開設。 新潟県燕三条では、中国語を話せるスタッフが常駐し、スプーン磨きや包丁研ぎの体験を実施。
関東	横浜(桜木町)は、カテゴリー3の「おもてなし部門」で1位。7人のスタッフが市内に新しい施設や店ができると積極的に足を運んで写真を撮ったり、段差の有無を確認したり。これを対話型アプリで情報共有。
東海	名古屋では、日本文化を体験できるイベントを月1回開催(観光施設の休館が多い月曜日)。 岐阜県飛騨では、ムスリムのための礼拝スペースを設置。
近畿	奈良では、日本文化の体験スペースを用意。体験については、書道、着物、お茶会等。 京都では、「京なびオンライン」を開設し、チャットボットで観光案内。日本語、英語、中国語、韓国語に対応。市内の主要駅8か所に専用タブレットを設置。 端末から案内所スタッフとビデオ通話も可能。
中四国	島根では、松江エクセルホテル東急が外国人観光案内所の認定を受け、スタッフが24時間対応。

以 上